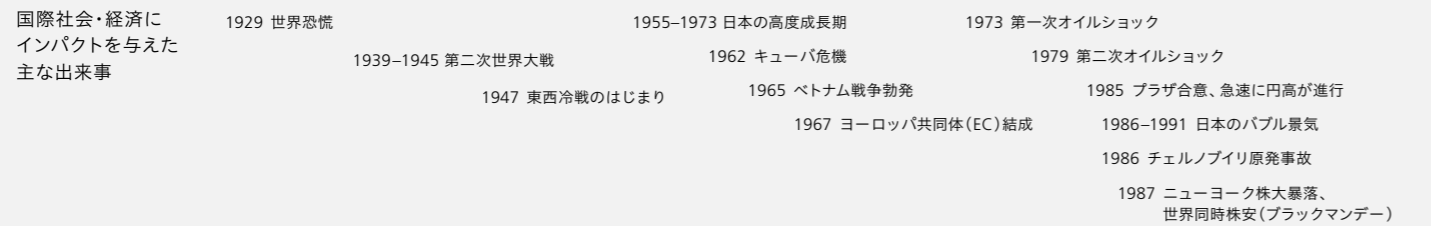


キヤノンの価値創造の歩み

キヤノンは1937年の創業以来、進取の気性と独自の技術を磨き、時代の変化に対応しながらお客さまと社会の期待に応え、新しい価値を創出し、成長を果たしてきました。ベンチャー企業としての発足から今日までのイノベーションの歴史を紹介します。



1930-40年代

世界一のカメラをめざして

事業に関する出来事

- 1933 国産の高級カメラ開発をめざし、「精機光学研究所」開設
- 1937 「精機光学工業株式会社」として創立

1950-60年代

グローバル化・多角化を推進

事業に関する出来事

- 1955 ニューヨーク支店開設
- 1957 スイスに欧州代理店キヤノンヨーロッパを開設
- 1965 キヤノンUSA設立
- 1967 創立30周年にあたり、「右手にカメラ、左手に事務機」をスローガンに多角化を推進
- 1968 キヤノンアムステルダム(現キヤノンヨーロッパ)設立



1970-80年代

多角化の推進、第二の創業

事業に関する出来事

- 1970 日本以外で初の生産拠点、台湾キヤノン設立
- 1972 ドイツに欧州初の生産拠点、Physotec GmbH(現キヤノンゲーゼン)設立
- 1988 創立51年目にあたり第二の創業を宣言し、「共生」を企業理念に制定

社会に価値をもたらす製品展開

1936 国内初の35mmフォーカルプレーンシャッターカメラ「ハンザキヤノン」発売。日本のカメラ界に大きなインパクトを与え、戦後のカメラの発展に寄与



1940 国産初のX線間接撮影カメラを開発し、当時死因1位の肺結核の早期発見に寄与



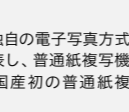
1961 自動露出機構を内蔵し低価格を実現した「キヤノネット」発売。爆発的な売上を記録。あらゆる人々が撮影を楽しめるEEカメラブームが到来



1964 世界初のテン(10)キー式電卓「キヤノラ130」を発売し、事務機分野に進出。10キーは後にデファクトスタンダード化



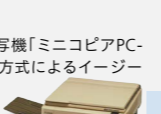
1968 高感度・高寿命を実現した独自の電子写真方式「キヤノンNPシステム」を発表し、普通紙複写機分野に進出。1970年には国産初の普通紙複写機「NP-1100」を発売



1976 世界初のマイクロコンピュータ搭載カメラ「AE-1」発売。失敗のない写真撮影が可能な完全自動化と、低価格化により世界中で大ヒット



1978 世界初のレーザー走査オートアライメント機構採用のマスクアライナー「PLA-500FA」発売。大口径化の動向を先取りした5インチウエハー対応と、自動基板供給装置搭載により、半導体製造の生産性向上に寄与



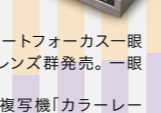
1982 世界初のカートリッジ方式複写機「ミニコピアPC-10/PC-20」発売。カートリッジ方式によるイメージメンテナンスや小型化により、家庭でのコピーを実現し、複写機市場拡大へ貢献



1984 世界最小・最軽量のレーザービームプリンター「LBP-8」発売。デスクトップパブリッシングの実現に貢献



1985 美しい・速い・静かという特長をもつ世界初のバブルジェット方式インクジェットプリンター「BJ-80」発売



1987 完全電子マウントを採用したオートフォーカス一眼レフシステム「EOS」およびEFレンズ群発売。一眼レフカメラの普及に大きく貢献

世界初のフルカラーデジタル複写機「カラーレーザーコピー1」発売。高画質フルカラーコピー時代を開拓

連結売上高推移

日本 米州 欧州 アジア・オセアニア 海外*

※1971年以前は国内以外の売上高は海外として一括で集計。

